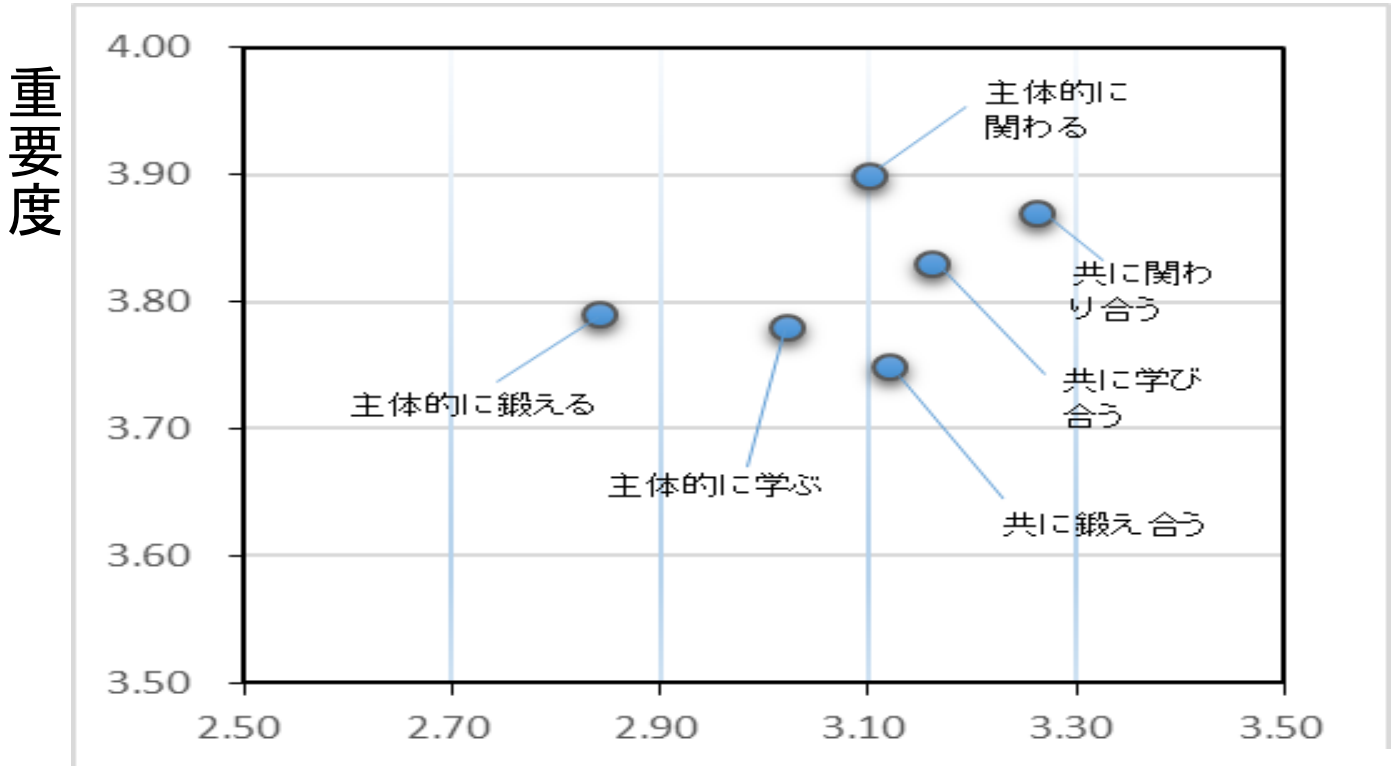
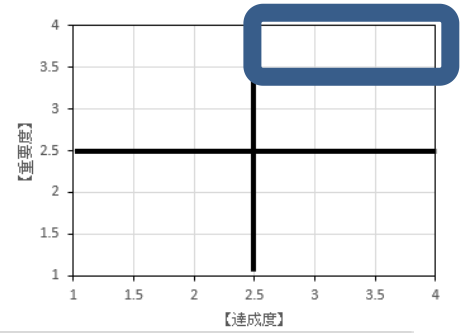


1 自己評価(学校便りとして紹介したもの)

学校評価アンケート ありがとうございました

本年度の学校評価の結果をお知らせいたします。「目指す学校像」に対する評価を、縦軸を重要度、横軸を達成度として整理しました。今年度も、どの項目も高い評価をいただいたため、拡大したものを掲載しています。達成度が低かった項目を来年度の重点と考え、教育活動に邁進いたします。ご協力ありがとうございました。



達成度

自分らしさが輝く楽しい学校

【主体的に学ぶ・共に学び合う】

楽しさは主体性の源、特に「授業が楽しい」学校を目指しています。アンケートでは、昨年度よりも「主体的に学ぶ」の達成度が高くなりました。来年度も「分かった」「やってみたい」という楽しさと将来や社会とつながりが感じられる授業を全力で目指します。

日本一の挨拶がこだまする学校

【主体的に関わる 共に関わり合う】

「主体的に関わる」ことの達成度が、昨年度よりも低くなってしまいました。「日本一の挨拶」については学年の実態に応じた目標を立てて取り組んできましたが、個人差も感じられました。どの子も挨拶や人と関わることの重要性を認識できるよう、道徳などの教科や行事等をとおして支援していきます。

夢を高く掲げる学校

【主体的に鍛える・共に鍛え合う】

「主体的に鍛える」「共に鍛え合う」の達成度が、昨年度よりも高くなりました。来年度も、今、学んでいることが将来や生活の何につながるのか考えたり、気付いたりする場面を設定しながら、一人一人が目標を設定し、共に鍛え合うことを支援していきます。

面の都合上限りはございますが、裏面にご意見・ご要望、回答等を記載いたします。アンケート結果を分析し、今後の教育活動に生かしてまいります。貴重なご意見、ありがとうございました。

《より質の高い「楽しさ」を追求していきます》

☆担任の先生が息子の苦手な教科を熱心に教えてくださいます。

☆子供たちが毎日楽しく通える環境を作ってくださいありがとうございます。

☆学校の授業がもう少しレベルの高いものになると良いそうです。

★「自分らしさが輝く楽しい学校」は、本校の重点目標の一つです。特に学校の本質である学びの充実は欠かせないと考えています。子供たちが「もっと知りたい」「早く学びたい」と思えるように、そして、「できた」「分かった」「もっと難しいことにも挑戦したい」と実感できるような授業となるように、効果的な授業の進め方や教材の開発など、研修を深めていきます。

《相手の気持ちや立場を考えた関わりを目指します》

☆挨拶の大切さを小さい頃からご指導いただき、ありがたいと思っています。

☆お友達に嫌な言葉を言われたことがあると聞きました。言葉の使い方や相手の気持ちなどを小さい頃からもっと伝えてほしいです。

★学校教育目標のとおり、「心豊かに人とつながる」ことは社会で生きていくうえで欠かせない要素です。挨拶も相手のことを大切に思っているという気持ちを伝える手段の一つと言えます。また、教職員全員が「いじめは絶対に許さない」という強い気持ちをもって、子供たち一人一人の気持ちに寄り添った支援をしていきます。

《適切にタブレットを使えるよう、情報モラル教育に努めます》

☆担任の先生のご配慮のおかげでリモート授業をしていただき、学校とのつながりが切れずに助かっています。

☆タブレットを持ち帰るようになり、宿題や友達とのやりとりに使っている様子を見ると、便利な時代になったなと思いますが、同時に上手な付き合い方をしっかりと考えないといけないなと思います。

★調べ学習以外にも、友達との意見交流やオンライン授業など、様々な場面で使える端末が全学年に導入されました。より効果的な使い方を研修していきます。また、これまでは高学年を中心にやってきた情報モラル教育を全学年で行い、他人を傷つけずに正しく安全に使えるようにしていきます。

《地域とのかかわりを大切にしていきます》

☆今年度もコロナ等で学校行事に参加できず、学校の様子を知ることがなかなかできませんでした。以前と少し違う形でも地域の人たちと子供たちの交流ができればと思っています。

☆子供たちと地域の高齢者の交流を通じて、高齢者の子供時代の体験等を話す場を設けてほしい。

★本校は来年度からコミュニティ・スクールを立ち上げます。コミュニティ・スクールは学校と家庭・地域が力を合わせて学校運営に取り組む仕組みである「学校運営協議会」を設置した学校をいいます。新たに立ち上げるその協議会とどのようなことができるのかしっかりと話し合っ活動を探求していきます。

《コロナ禍でもできる努力はしていきます》

☆コロナ禍においても、できる範囲のことを子供たちのためにして下さることがありがたいです。今後も感染対策をしつつ、子供たちが学校生活を楽しく送れるよう、周りの大人がサポートしていけるといいと思います。

☆コロナ感染拡大の影響も大きいと思いますが、見直しと称した省略が多いように思います。

★「夢を高く掲げる学校」は、本校の重点目標の一つです。このコロナ禍の中でも、子供たちが成長できる機会をなるべく奪わないようにと考えて計画を立て、保護者の皆様に伝えてきたつもりですが、伝わらなかった部分があり申し訳なく思います。例えば持久走記録会ですが、今年度から実施しないこととなりました。これは学習指導要領の改訂が大きく関わっております。低学年・中学年では持久走は指導項目にはなく、高学年で「無理のない速さで5~6分の持久走を行う」ようになっております。そのため年間指導計画を見直し、体育科の学習で実施することはあっても、記録会は行わないことといたしました。また、運動会での騎馬戦・城落としは、校舎新築工事により八幡中の運動場を使っていたことと、新型コロナウイルス感染症対策で僥倖種目を削減したり、子供同士が密に接触する種目をなくしたりしたため、ここ数年は行っておりません。今後も子供の健康安全を第一に考えた上で、子供たちと相談したり、保護者・地域の方の御意見を伺ったりしながら、コロナ禍であってもできる限りのことは実施していきたいと思っています。

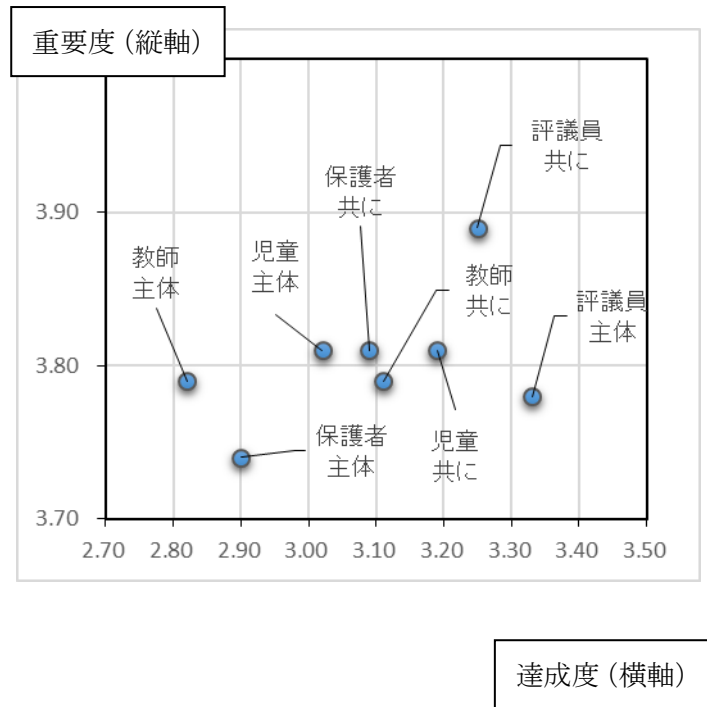
2 詳細分析

自分らしさが輝く楽しい学校

【主体的に学ぶ・共に学び合う】

- 児童と保護者の「主体的に学ぶ」に
対する重要度は比較的高いが、達成度は低い。
- 児童と保護者の「共に学び合う」に
対する達成度・重要度は比較的高い。

項目	達成度	重要度
保護者 主体	2.90	3.74
保護者 共に	3.09	3.81
教師 主体	2.82	3.79
教師 共に	3.11	3.79
児童 主体	3.02	3.81
児童 共に	3.19	3.81
評議員 主体	3.33	3.78
評議員 共に	3.25	3.89



<対策>

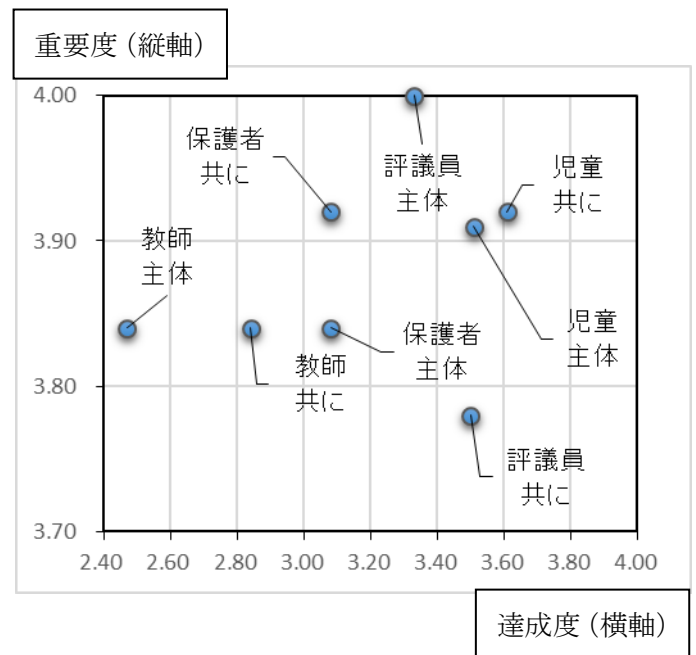
「夢を高く掲げる学校」ともリンクするが、学習意欲が沸き立つように、個々に目標を定める。また、教師は単元計画をきちんと立て、導入を工夫したり、単元計画を明示したりして、子供が学習の意義をつかめるように工夫していく。

日本一の挨拶がこだまする学校

【主体的に関わる・共に関わり合う】

- 児童の重要度・達成度は、高い。
- 3項目の中で最も重要度が高い。
- 教師の達成度は、目指すところが高くなるためこの項目以外も全て低い傾向にある。

項目	達成度	重要度
保護者 主体	3.08	3.84
保護者 共に	3.08	3.92
教師 主体	2.47	3.84
教師 共に	2.84	3.84
児童 主体	3.51	3.91
児童 共に	3.61	3.92
評議員 主体	3.33	4
評議員 共に	3.5	3.78



<対策>

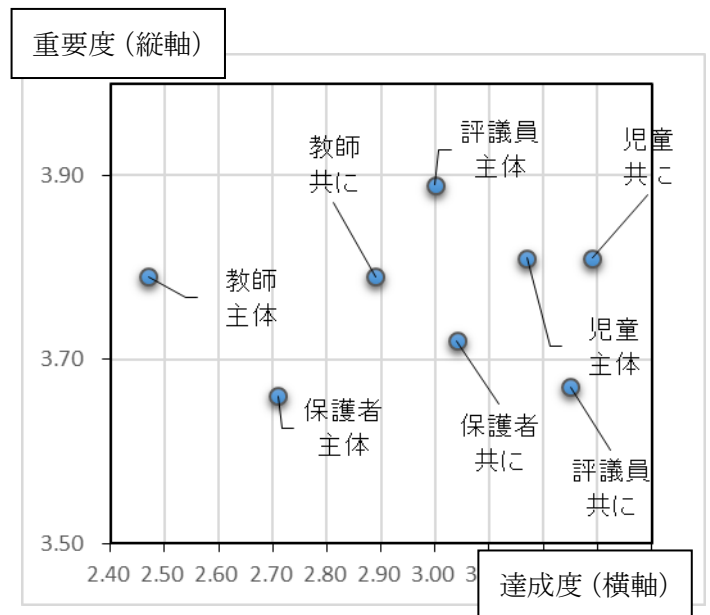
子供の意見を中心にあいさつ運動を進めてきた。徐々に浸透してきているので、来年度も発展させながら計測していく。また、お便り等で保護者や地域にも活動を知らせながら広げていく。

夢を高く掲げる学校

【主体的に鍛える・共に鍛え合う】

- 3項目の中では、全般的に達成度が低い。
- 保護者と教師の達成度は、3項目の中では1番低い。

夢を高く掲げる学校（鍛える）		
項目	達成度	重要度
保護者 主体	2.71	3.66
保護者 共に	3.04	3.72
教師 主体	2.47	3.79
教師 共に	2.89	3.79
児童 主体	3.17	3.81
児童 共に	3.29	3.81
評議員 主体	3	3.89
評議員 共に	3.25	3.67



<対策>

将来の目標、現学年での目標、行事に対する目標、授業での目標等、常に目標を意識させる。そのうえで目標に到達するために必要なことを話し合ったり、教師が明示したりして、段階を踏みながら学習や活動を進めていく。

3 学校評議員評価(アンケート・話し合い)

- 放課後や土日も校庭を開放していると聞きました。両親とも仕事で、一人の子にとって、友達と会って身体を使って遊べる場所があるというのは良いと思います。
- 今年度もコロナ等で学校行事に参加できず、学校の様子を知ることがなかなかできませんでした。以前とは少し違う形でも地域の人たちと子供たちの交流ができればと思っています。
- 地域との協力の必要性を感じています。
- 子供たちと地域の高齢者の交流を通じて、高齢者の子供時代の体験等を話す場を設けてほしい。自治会としても積極的に参加させてもらいます。



4 学校評議員評価を受けて

- ☆本校は来年度からコミュニティ・スクールを導入するので、学校運営協議会と交流の仕方や周知の方法等を話し合い、連携を密にしながら要望に応える手段を模索していく。
- ☆新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖や不登校児に対応した、学習用タブレット端末を用いたオンライン学習が好評だったため、来年度も必要に応じて積極的に用いていく。また、効果的な使用方法について、さらに研修を深めていく。
- ☆「日本一の挨拶がこだまする学校」になるために、来年度も子供と方法を模索しながら広げていく。